

- トピック&ニュース -

- 種を蒔きました！
- 高菜を漬けました
- 両併地区を語る会が開かれました

前略

すっかり初夏のような陽気が続く阿蘇ですが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、今月はいよいよ米作りが始まったというご報告です。そう、種を蒔いたのです！
これまでも田んぼの準備や機械の点検など、下準備はいろいろとしてきましたが、種を蒔くといよいよ米作りが始まったことを実感します。おかげさまで予約のお客様が増えてきていますので、今年は去年よりも多く無農薬米に挑戦します。

種を蒔く準備は、山の土を採るところから始まります。なんでも山の土は雑菌が少ないため、発芽には良いのだそうです。昔は山に登っては土を削り、大変な思いをして運んできたそうですが、今では専門の業者さんがいます。業者さんは山の土を何度も耕起してやわらかくし、さらにふるっておいてくれるのですが、実はこの土けっこうな値段がします。それでも自分で山に行って土を削り、それを何度もふるって...という手間を考えると、出せない額ではない、という微妙な価格設定でした。世の中本当にいろんな商売があるものなのですね。



この土を更にもう一度ふるって細かい塊を除き、肥料を混ぜて@ x @ cm の箱に薄く敷き詰めます。箱に土を詰めておけば、後は田植えの予定日から逆算して種まきの日程を決めます。今年は5月2日頃が田植え予定なので、種まきは4月14日に行いました。当日は土を詰めた箱をビニールハウスの中に並べ、冷水に10日、さらにお風呂に2晩つけて発芽させた籾を蒔き、薄く土をかぶせていきます。一家総出の上、ご近所から「かせ」(=加勢。阿蘇弁で「手伝い」のこと)

まで来てもらい、ワイワイと作業をしました。種まき後は銀色の保温シートをかぶせます。あと数日もすれば、かわいい芽が勢い良く出てきてくれることでしょう。

話は変わりますが、3月下旬には阿蘇名物の高菜を採る姿があちこちで見られました。春の風物詩でもあるこの高菜とりですが、今年度はあまり生育が良くないようです。米も不作でしたが、野菜も何も今年はすべてイマイチのできでした。阿蘇以外でも高菜は採れますが、独特のピリッとした辛みは、阿蘇ならではという事です。ばあちゃんの腕には到底及びませんが、私も初めて高菜漬けをしてみました。



それから、去る4月12日に「両併地区を語る会」が開かれました。おあしす組合の代表で村議会議員でもある吉良清一さんが呼びかけたものですが、30名を越す参加者で予想以上の盛況でした。阿蘇広域の地域振興を担っている「阿蘇デザインセンター」(URL@)の局長さんと、九州芸工大学の助教授が進行役を努めて下さり、白水村の、その中でも両併地区の今後を考えました。南阿蘇は、早くから観光開発が進んだ阿蘇谷に比べ、出遅れたイメージがありましたが、それがかえってのんびりとした農村らしい雰囲気を残すことにつながりました。この雰囲気を残していきたいという気持ちと、このままでは若者がいなくなってしまうという焦り。私達の住む両併地区は、日本の多くの農村が抱えているこうした悩みを抱えています。とはいえ、住民は元気で、何より明るいのです。この会にも青壮年が多く参加し、これからもこうした会を開いていこうという話になりました。私達も両併地区、そして白水村の良さを残していくよう頑張りますが、皆様もぜひエールを送ってください。今後とも、この恵まれた環境の中でおいしいお米作りに励みたいと思います。

平成16年4月18日
南阿蘇白水村